

2016 年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会 報告

日 時：2016 年 6 月 24 日（金）13:00-17:00

場 所：千葉大学

出席者：国際教育交流センター 村岡貴子教授、西村謙一准教授

国際部国際学生交流課 遠山裕子課長、中島花子係員

プログラム：別紙の通り

以下、プログラムの順に概要を報告する。

講演① 「日本の留学生施策について」（文部科学省 泉茂樹氏）

資料に基づき、日本の留学生施策全体について説明があった後、日韓共同理工系学部留学生事業について第 2 次第 7 期からの高校の内申成績を点数化して評価に 3 割加えることになった変更点や、第 3 次事業に向けた検討課題について説明があった。

講演② 「韓日理工系学部留学生事業の発展方案について」

（大韓民国国立国際教育院 林華 教育研究士）

資料に基づき、本事業修了者の進路、2016 年度の選抜に関わる全体日程と変更点などについて説明があった。

講演③ 「2016 年第 2 次第 7 期生韓国予備教育課程の現状報告」（慶熙大学国際教育院 趙 龍 院長）

資料に基づき、2016 年度における韓国での予備教育全般について説明があった。特記事項として、今年度からは、カリキュラムを変更して英語科目などを外し、当該予備教育の入学前に日本語を先行学習として課すことによって、来日時に当該学生が N2 レベル以上の日本語能力を有する状態になるよう教育を施していると報告された。また、日本側のごく一部の配置大学が、本事業の学生に日本留学試験（EJU）を課していることについて、特別プログラムにつき、同試験を課さないよう強く要請があった。

全体討議 「日韓プログラムによる人材育成の成果と今後の課題について」（司会：千葉大学 見城悌治 准教授）

(1) 「千葉大学が実施したフォローアップ調査の報告」（千葉大学 佐藤尚子 准教授）

資料に基づき、①千葉大学に配置された学生数、②プログラム卒業生を対象としたフォローアップ調査の結果について説明があった。

(2) 卒業生による発表

- a) ホ ジョンウォン氏 (第1次第2期生)
- b) ジョン ギョウン氏 (第1次第9期生)
- c) ジョン ホチョン氏 (第1次第10期生)

すでに企業（韓国企業に就職後日本に再留学1名、日本企業1名）で働いている卒業生は、日韓の友好関係促進に貢献したいとの抱負を述べた。また、在学中に兵役に従事した卒業生からは、スムーズな復学のためには日本側受入れ大学の丁寧なサポートが重要であるとの見解が示された。

(3) 「日韓共同理工系学部留学生アンケート 集計結果」(千葉大学 佐藤尚子 准教授)

資料に基づき、日本側受入れ大学を対象にしたアンケート結果について説明があった。調査項目は、①渡日前、②入学後の生活、授業について、③卒業後の進路について、④第3次事業についてである。①については、日本語教育・コミュニケーション能力の育成が渡日前教育で最も重要であること、渡日後に学生が直面する困難としては自己管理能力・生活力の問題であることが示された。②については、入学後に学生が直面する困難として、講義内容の理解など授業関係の問題および人間関係の構築が指摘され、留学生担当教職員やカウンセラーが学生対応に当たるケースが多いことが示された。③については、進路指導は他の留学生や日本人学生への対応と同様であることが明らかになり、大学院進学理由は就職や研究継続のためであることが明らかになった。

次回当番校：名古屋大学

以上